

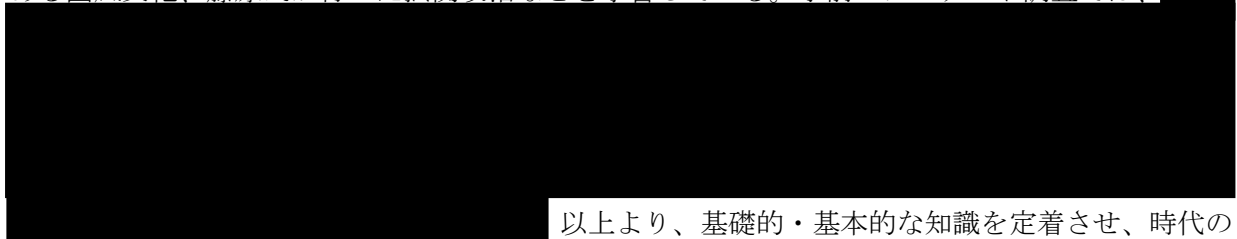
1 単元 「武家政権の成長と東アジア」内容項目 B- (2)

2 指導観

- 長い歴史を持つ国や地域どうしが各地で衝突する現在、東アジア情勢もこれまでになく緊張感を増している。日本と東アジア諸国は、古くは古代より、中世においても対立と協調を繰り返し、お互いに影響を及ぼしてきた。過去の歴史から学び、諸外国と相互扶助しながら、平和な未来を創ろうとする態度の育成が私たちの使命である。

本単元は、天皇・貴族中心の世の中から武士中心の世の中へ大きく時代が移っていく過程に着目させるとともに、中世の時代の特色を明らかにすることをねらいとしている。学習内容としては、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成などがある。これらの内容について、絵画や文学、仏教など現在まで残る具体的な事例を取り上げながら、それまでの時代と比較・考察させることで、貴族や武士、農民という様々な立場から歴史の流れを多角的にとらえさせることができると考える。また、民衆の生活の変化と文化の関連性に着目させることで、それが後の室町幕府の成立、南北朝時代、戦国大名の台頭などの歴史の流れにつながっていくことをつかむためにも意義深い単元である。

- 本学級の生徒は、前単元までに、唐やインドなどの影響を受けた天平文化や、日本独自の文化である国風文化、藤原氏が行った摂関政治などを学習している。事前のアンケート調査では、



以上より、基礎的・基本的な知識を定着させ、時代の流れを意識させつつことを見いださせることが必要であるとわかった。よって、歴史の流れを意識しながら、時代や権力の中心が移動した理由を理解し、自身の言葉で説明するような学習活動が必要不可欠であると考えた。

- 本単元の指導にあたっては、時代ごとの社会的事象を多角的にとらえたり、各時代を比較したりしながら、単元で身につけさせたい基本的な知識を明らかにするために、系統的に単元計画を設定していく。それを通して、権力の中心が常に移り変わってきた歴史の流れを意識させることをねらいとする。そのためにまず、鎌倉を中心とした武家政権の特徴を理解させる。ここでは、鎌倉幕府と御家人の間に存在する御恩と奉公の関係と、北条氏の執権政治について理解させるため、系図を提示する。次に、幕府と御家人の関係が現行後に悪化したことを理解させる。ここでは、元寇によって幕府が御恩を果たすことができなかつたことと、北条氏に権力が集中することをよく思わない御家人たちが多くいたことを、前時までの振り返りを踏まえて整理する。さらに、鎌倉幕府の滅亡から、室町幕府の成立までの流れを説明させる。ここでは、歴史の流れとその理由を結び付けて理解することができるように、学習プリントを年表形式にして、教科書や資料集から調べて記入する活動を取り入れる。最後に、室町時代の人々の団結と、応仁の乱後の世の中について説明させる。この時代に、各地で農民が一揆をおこしたり、全国の武士に下剋上の風潮が広まったりするなど、民衆や武士が社会を変化させていったことを理解させるため、絵画や写真などの資料を提示し、そこから読み取ったことを説明する活動を取り入れる。

3 目標

- 朝廷や幕府、諸外国がお互いに影響を及ぼす中で、政治や文化の特徴やその担い手が変化したことを理解する。【知識・技能】
- 中世に関する資料を、既習内容や現代と比較しながら読み取ったり、文章・図表にまとめたりすることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 中世の貴族や武士、民衆の生活について、変化やそこにみられる課題について主体的に追究しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

4 計画（10時間）

知：知識・技能 思：思考力・判断力・表現力等 学：学びに向かう力、人間性等

次	時	学習活動・内容	手だて	評価規準
一次	4 本時 4 / 4	1 武士の出現と成長について理解する。 ・武士 ・奥州藤原氏	○ 武士は元々土地を守るために武装したことを理解させるため、貴族と荘園の関係について振り返らせる。	知：武士が棟梁を中心に武士団を形成し、広く力をつけていったことを理解できる。
		2 平氏が力を持った理由と行った政治について説明する。 ・院政 ・日宋貿易	○ 平氏が力を持った理由について理解させるために、平安時代の藤原氏の政治と比較する資料を提示する。	思：藤原氏の摂関政治と比較しながら、平氏の政治について説明できる。
		3 鎌倉を中心とした武家政権の特徴を説明する。 ・鎌倉幕府 ・執権政治	○ 鎌倉幕府と御家人の関係と、北条氏の執権政治について理解させるため、系図を提示する。	思：幕府と御家人の関係を踏まえて、鎌倉幕府の政治について説明できる。
		4 建造物・文学・絵画・仏教資料の読み取りを通して、鎌倉時代に栄えた文化の特徴を説明しよう。 ・飢饉や災害と仏教の関係	○ 各文化財について比較し、理解しやすくするため、視覚的な資料を提示する。	思：国風文化と比較しながら、鎌倉文化の特徴を説明することができる。
二次	3	5 元寇後に幕府と御家人の関係が悪化したことを知る。 ・蒙古襲来（元寇） ・御恩と奉公	○ 鎌倉幕府の滅亡につながる大きな出来事であると理解させるために、幕府と御家人の関係について振り返る。	知：蒙古襲来において、幕府が御恩を果たせなかったため、両者の関係が悪化したことを理解できる。
		6 鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立までの流れを説明する。 ・建武の新政 ・室町時代	○ 歴史の流れとその理由を結び付けて理解させるために、学習プリントを年表形式にし、記入させる。	思：朝廷の動きを踏まえ鎌倉幕府の滅亡から室町幕府成立の流れを説明できる。
		7 室町幕府と東アジアの関係を説明する。 ・勘合貿易	○ 勘合貿易を行った理由を考察させるために、勘合を模した物を実際使用させる。	思：幕府と倭寇と明との関係を踏まえ、勘合貿易について説明できる。
三次	3	8 鎌倉・室町時代の産業の発展について説明する。 ・二毛作	○ 新しい農業用具など、産業の発展について理解を促すため、視覚教材を提示する。	思：農業や手工業の発展に伴い、交通や金融も発展していったことを説明できる。
		9 人々の団結と、応仁の乱後の世の中について説明する。 ・農民の一揆と武士の下剋上 ・戦国時代	○ 民衆や武士が社会を変化させていったことを理解させるために、絵画や写真などの資料を提示し、読み取らせる。	思：民衆や武士がヨコの結びつきを強め、支配者に抵抗したことで社会が変わったことを説明できる。
		10 室町時代に栄えた文化の特徴を説明する。 ・桃山文化と東山文化の相違点	○ 庶民が文化の担い手となったことを理解させるため、室町時代の産業の発展について資料を提示する。	思：庶民が文化の担い手となったことを理解し、室町文化の特徴を説明できる。

5 本 時

(1) 本時の指導観

前時までには生徒は、各地で武士団が起り、源氏が兵士を倒し鎌倉幕府を開いたことなどについて学習している。そこで本時は、鎌倉時代の建造物・文学・絵画・仏教資料を読み取ることを通して、平安時代と比較しながら鎌倉文化の特徴をつかむことをねらいとする。そのためにまず、平安時代の文化である国風文化の特徴を振り返る。ここでは、より具体的に国風文化について思い出せるよう、視覚的な資料を提示する。次に、本時のめあてと学習課題を把握させる。さらに、平安時代の文化と鎌倉時代の文化を比較し、その特徴をまとめ、発表する。ここでは、各文化財の特徴をとらえやすくするために、建造物・文学・絵画・仏教それぞれの共通点を見出させる。また、学習課題に取り組みやすくするため、各班が特徴を発表する際に、カードに印をつけながらまとめていく。最後に、新仏教が民衆に広がっていった理由を考察する。ここでは、「鎌倉時代の新仏教と主な出来事 p69」を提示し、多くの災害やそれによる飢饉を受けて、この時代の民衆は救いを求め、新仏教を受け入れ広めていったことが分かるようにする。

(2) 主眼

- 鎌倉文化に関連する建造物・文学・絵画・仏教資料を基に、平安時代と鎌倉時代の文化を比較することを通して、鎌倉文化の特徴と背景を説明できる。

(3) 評価の観点と評価規準・基準

評価の観点	評価規準	評価基準
○思考力・判断力・表現力等	鎌倉文化の特徴を説明することができる。	A: 武家政権の成長と相次ぐ戦乱・飢饉・災害を背景にした、鎌倉文化の特徴を説明することができる。 B: 武家政権の成長を背景にした、鎌倉文化の特徴を説明することができる。

(4) 準備

- ①武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化（プリント） ②国風文化と鎌倉文化を比較しよう（プリント）
- ③国風文化の振り返り（PPT資料） ④発表用カード（各班1枚）

(5) 過程

過程	学習活動・内容	手だて (○) 評価 (◇)	形態	配時
導入	1 鎌倉時代以前の文化について振り返る。 ・平安時代の国風文化の特徴とその背景	○ 鎌倉文化について関心を喚起させ、国風文化についてより具体的に振り返ることができるように、視覚的な資料を提示する。	一斉	7
	2 本時のめあてと学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> 学習課題 鎌倉文化を象徴する キャッチコピーを考える </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> めあて 4つの視点から鎌倉時代に栄えた文化の特徴を説明しよう。 </div>		一斉	3

展開	3 資料を基に、各文化財についてまとめ、発表する。 ・平安建造物と鎌倉建造物の比較 ・平安文学と鎌倉文学の比較 ・源氏物語絵巻と後三年合戦絵巻・男衾三郎絵巻の比較 ・平安仏教と鎌倉仏教の比較	○ 鎌倉文化の特徴を考察できるように、建造物・文学・絵画・仏教における平安時代と鎌倉時代の特徴を比較させる。 ○ 各文化財の特徴をとらえやすくするために、建造物・文学・絵画・仏教それぞれの共通点を見出させる。	個別 ↓ 班 ↓ 一斉	10 10 10
	まとめ	4 鎌倉文化の特徴の背景を考察する。 ・飢饉や災害と仏教の関係	○ 民衆の生活などに目を向けることができるように、当時の社会情勢がわかる資料を提示し、文化的背景を問う。 ◇ (授業プリントの記述) A: 武家政権の成長と相次ぐ戦乱・飢饉・災害を背景にした、鎌倉文化の特徴を説明することができる。 B: 武家政権の成長を背景にした、鎌倉文化の特徴を説明することができる。	個人 ↓ 一斉

板書計画

